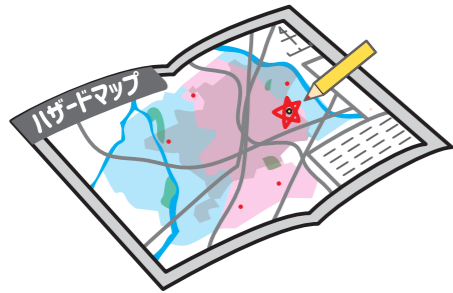


米原市防災ハザードマップの使い方を知りましょう

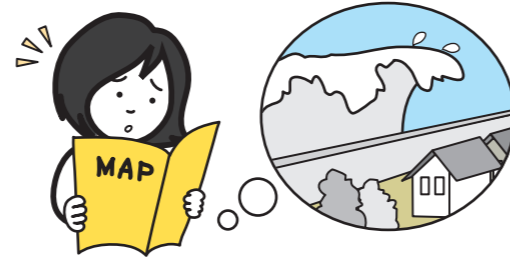
1 家の位置を確認しましょう。

あなたの家の場所をマップに書き込みましょう。



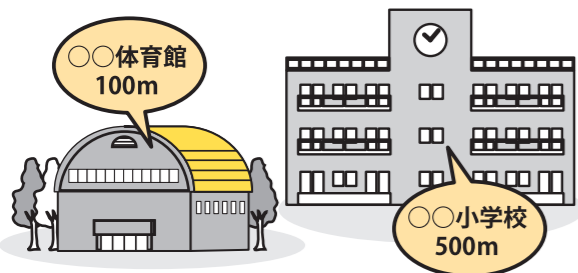
2 家の周りの災害の危険性を確認しましょう。

あなたの家は浸水が想定されている区域ですか？土砂災害の警戒が必要な区域ですか？



3 避難場所を確認しましょう。

最寄りの避難場所までの距離を確認しましょう。



4 避難経路を考えてみましょう。

災害の危険性や狭い道路を避け、安全な避難経路を確認しましょう。



5 実際に避難場所まで歩いてみましょう。

地図で選択した避難経路が安全かどうか、その他の避難経路についても確認しましょう。



6 災害ごとに避難行動や、避難場所を決めておきましょう。

あなたの家だけでなく、家族の職場やよく行く場所などについても避難場所や危険性を確認しましょう。
また、家族で感染症対策についても考えておきましょう。



わが家の避難行動方針を考えましょう

災害時に備え、下線部分に必要な事項を記入し、コピーして家族で共有しましょう。

地震	
緊急地震速報を見聞きしたり、地震の揺れを感じたら、自分の身を守る行動をとります。	
地震の被害があり、命の危険がある場合は、	_____へ避難します。 (広域避難所など)
避難の途中で危険を感じたら、	_____へ緊急的に避難します。
家が被災し、生活が困難な場合は、	_____へ避難します。 (広域避難所など)

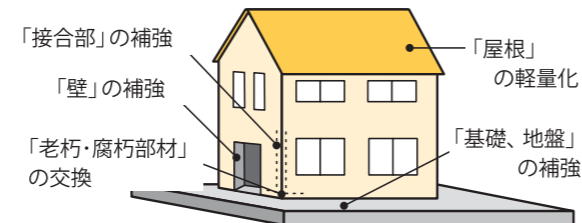
風水害	
台風が接近したり、大雨の予報があれば、テレビ・ラジオ・メール・インターネットなどで情報収集をします。	
風水害に関する情報を収集し、危険を感じたり、避難情報を入手したら、	_____へ避難します。 (広域避難所など)
避難の途中で危険を感じたら、	_____へ緊急的に垂直避難します。
家が被災し、生活が困難な場合は、	_____へ避難します。 (広域避難所など)

地震への防災対策に取り組みましょう

住宅の耐震性を確認し、耐震化を検討しましょう

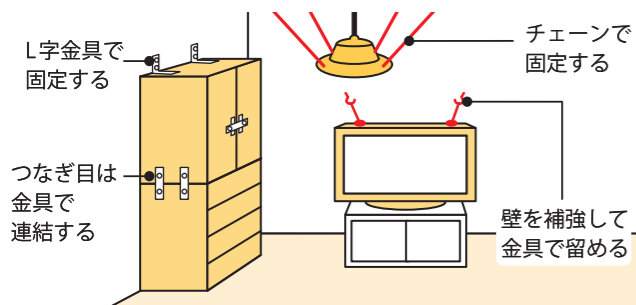
市では簡易耐震診断を無料で実施しています。また、住宅の耐震改修工事や耐震改修計画を策定される方を対象※に、その費用の一部を補助しています。詳しくは市にお問い合わせください。
※昭和56年5月31日以前に建てられた住宅が対象

●住宅の耐震化例



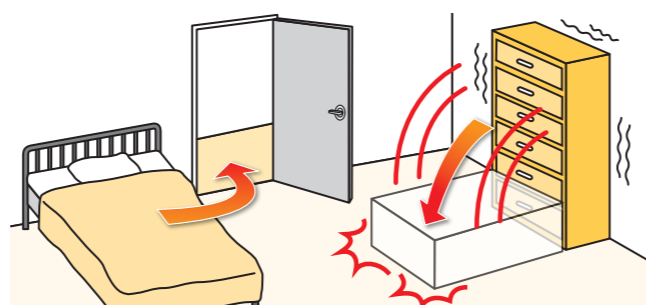
家具の転倒防止・家具の配置に注意しましょう

家具が倒れないように固定しましょう



家具やテレビなどを固定し、転倒や落下を防止する。

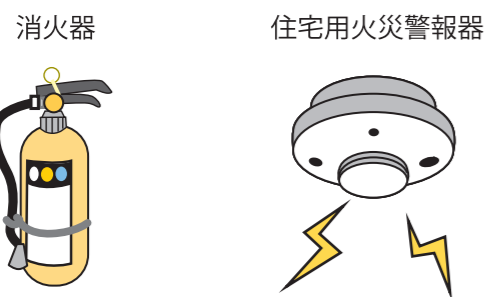
家具の配置に注意しましょう



寝室には倒れそうな家具を置かない。扉をふさぐような配置をしない。

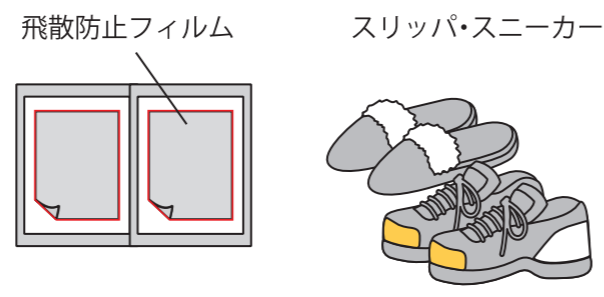
二次災害にも備えましょう

火災への備え



消火器や住宅用火災警報器を設置・点検する。感震ブレーカーを設置する。地震保険に加入する。

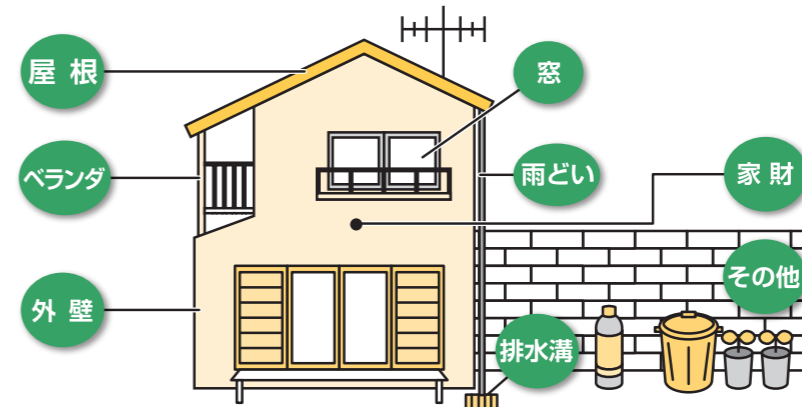
室内での備え



窓ガラスや食器類の破片対策として、飛散防止フィルム、スリッパなどを準備する。

風水害への防災対策に取り組みましょう

住宅の周りを確認し、対策を行いましょう



屋根

- アンテナは不安定ではないか。
- トタンがめくれているか。
- 瓦のひび・割れ・はがれはないか。

窓

- 窓枠のがたつきはないか。
- 雨戸のがたつきはないか。

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険があるものはないか。

雨どい

- 雨どいに落ち葉などが詰まっているか。
- 継ぎ目ははずれや塗装のはがれ、腐りはないか。

外壁

- 壁に亀裂はないか。

排水溝

- 排水溝にごみや土砂は詰まっているか。

家財

- 貴重品などは、すぐに持ち出せるようになっているか。
- 濡れて困るものは、あらかじめ高い場所へ移動しているか。

その他

- 商店などでは看板のぐらつきはないか。
- ごみ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定しているか。
- 庭木には添え木をしているか。
- ブロック塀はくずれそうになっていないか。
- プロパンガスのボンベは鎖などでしっかり固定されているか。

いざというときに家庭でできる浸水対策を知っておきましょう

家庭にあるものを土のうや止水板のかわりに使用することで、浸水を軽減することができます。

【例1】ごみ袋とダンボール

- ごみ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れる。

- ダンボール箱に入れ、連結する。

【例2】ポリタンクとレジャーシート

- レジャーシートで巻き込み、連結する。

- ポリタンクに水を入れる。

【例3】プランターとレジャーシート

- レジャーシートで巻き込み、連結する。

- プランターに土を入れる。

非常持出品・非常備蓄品を準備しましょう

公的な支援物資は、災害発生後からすぐに届かない場合があります。また、コンビニなどのお店にも人が殺到し、すぐに商品がなくなることもあります。そのため、家庭では非常食などの防災グッズを備えることはとても重要です。

非常持出品

非常持出品は、避難するときに持ち出すものです。持って運べるだけの必要最低限にし、リュックサックなど両手が使える袋に入れましょう。

貴重品

- 身分証明書
- 健康保険証
- 印鑑 通帳
- 現金（小銭がベスト）など

医療薬品類

- 常備薬
- マスク
- おくすり手帳
- 体温計 アルコール消毒液



小物道具類

- 懐中電灯 ラジオ
- 電池 携帯電話、充電器

袋類

- ゴミ袋、レジ袋
- チャック付きビニール袋

水・食料など

- 飲料水
- 非常食

その他

- ティッシュ ウェットティッシュ タオル
- スリッパ レジャーシート 下着・上着などの着替え
- 軍手 雨具、防寒着
- 筆記用具 生理用品

非常備蓄品

非常備蓄品は、災害直後から混乱が収まるまでに必要なものです。最低3日間分、できれば1週間分の備蓄をしておきましょう。

- 飲料水、生活用水 非常用給水袋 非常食（アルファ化米、レトルト食品など）
- 衛生用品 携帯コンロ、ガスボンベ ラップ、アルミホイル 雨具 使い捨てカイロ 予備電池

避難所での感染症対策の徹底

避難所には多数の避難者が1つの空間に集まります。一人ひとりが感染症対策の徹底を心がけることが必要です。

1 マスクの着用、手洗いなどの基本的な感染症対策の徹底

マスク、体温計、アルコール消毒液、ビニール袋など、あらかじめ準備している非常持出品に加えておきましょう。



2 十分な換気の実施、スペースの確保など

3 避難所の衛生環境の確保

物品などは定期的に消毒する、また汚れがある場合には、家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。



自主防災組織へ参加しましょう

大規模な災害時は、警察、消防や行政機関だけでは十分な救援活動ができない場合があります。このような場合は、近隣住民の皆さんがお互いに助け合って、負傷者の救出、避難誘導などを行い被害を軽減させることが重要となります。

日ごろから地域の防災活動、自主防災組織に参加し、災害に備えた取組を地域で行いましょう。（自主防災組織は、市内多くの自治会で結成されています。）



平常時

- 防災知識や技術の普及活動
- 避難行動に支援が必要な方への支援体制の構築
- 防災訓練の実施
- 防災資機材の備蓄
- 危険箇所の把握



災害時

- 災害情報や被害情報の収集、伝達の協力
- 負傷者の救出
- 避難誘導
- 避難所の開設と運営への協力
- 炊き出し、配送、配給、給水などの実施



自主防災組織の活動例

避難行動要支援者の避難支援体制づくり

災害が発生したときや災害が発生するおそれがあるとき、自力で避難することが困難な高齢者や障がいをお持ちの方は、災害時の避難情報の伝達や避難誘導などの支援が必要となります。

市では、災害時に避難支援などを必要とする方を把握するため、「避難行動要支援者名簿」を作成し、避難支援関係者（自治会長、自主防災組織、民生委員・児童委員など）と情報を共有しながら、避難支援プラン（個別計画）の作成や個別計画に基づく要支援者対応型避難訓練の実施を支援しています。

平時には個別計画の作成や要支援者対応型避難訓練の実施を含めた地域での見守り活動、災害時には、地域の方による避難支援や安否確認など、地域のつながり、支え合いによる避難支援体制づくりを進めていくことが大切です。地域で地域を守る「地域の災害対応力」の強化を地域ぐるみで推進しましょう。



個別計画を活用した要支援者対応型避難訓練の様子（岩脇自治会）